

- 1.コミュニティカフェ 蕎麦🍜サロン
- 2.傾聴ボランティア育成講座
- 3.LBJ アウトドアイベント
- 4.LBJ セミナー
- 5.臓器保存機能再生研究開発各種学会発表
- 6.いのちの架け橋チャリティフォーラム2015
- 7.第2回想いをつなぐアート展
- 8.その他

### 1.コミュニティカフェ 蕎麦🍜サロン : 多賀八重子(事務局、サロン及び傾聴担当)

アラジンでのコミュニティカフェを卒業して、蕎麦打ち手習いも出来る体験型サロンをスタートしました。場所は、JR 阿佐ヶ谷駅徒歩 3 分阿佐谷地域区民センターの調理室。暑い夏の盛りと冬季を除き毎月 1 回開催しました。開始早々は群馬から須藤進師匠にお越し頂き蕎麦打ち指導に始まり、その後は須藤師匠直伝の蕎麦打ちを受け継いだ 3 名で、参加者へ蕎麦打ちを伝授。打ち立て茹で立てのお蕎麦の味見とおしゃべりタイムを楽しみました。お蕎麦を食べるだけの参加者もありました。初めてお蕎麦を打つ方が多く、自分で打ったお蕎麦の美味しさに感動し、蕎麦打ちを楽しみに来てくれる人が増え好評でした。



### 2.傾聴ボランティア育成講座: 窪田基予子

傾聴ボランティアの活動をスタートして気づいたことは、「傾聴ボランティア＝お年寄りの話し相手」と誤解されている方が実に多いこと。「傾聴すること」は高齢者や認知症の方に限らず、誰でも身近に使える人間関係をより良く導くことができる素敵なツールであることを知っていただくために、9 月 26 日に入門講座「傾聴の基本を学ぼう」(すぎなみ NPO 支援センター)と翌 27 日に応用講座「子どもの話に関心をもって聴くコツと効果」(株細田工務店会議室)を開催しました。各講座 20 名を対象とし、「誰でもできる、よく聴く力で自分磨き」をテーマにしました。ボランティアをするまでの気持ちはないけれど、傾聴に興味があるので勉強したいという方が、入門講座に参加され、お子さんやお孫さんとのより良い関係づくりをしたい方は、更に応用講座を受講されました。LBJは、「こころの東京革命協議会」のメンバーです。(www.kokoro-tokyo.jp/)東京都の事業で川淵三郎さんが会長です。そこで、講師は「こころの東京革命」チーフアドバイザーの岸美津枝先生にお願いしました。ロールプレイを中心に、大人はどのような姿勢で子どもと対応すると良い会話が成立するのかを学び、子どもの気持ちが少しわかった気がするといった感想を頂きました。受講後お二人が LBJ 傾聴サークルクローバーに入会されました。

### 3.LBJ アウトドアイベント: 瀬戸島 功(事務局長 イベント担当)

昨年 9 月 7 日(日)に LBJ アウトドアイベント 2014～みんなで楽しもう! フィッシング(ルアー&フライ) & BBQ を開催致しました。会場は小菅トラウトガーデン。参加者は大人 9 名、子ども 3 名でした。このイベントでは、移植医療を行う事で QOL(クオリティー・オブ・ライフ)が向上し、非日常の楽しさを手に入れられる事を皆様に感じていただくこと。様々な病気や悩みと向き合い生きている方々にも、自然の中でみんなで釣りなどを楽しむことで、子どもの頃の気持ちのまま、ただ夢中になることを思い出していただき、自然は誰にでも平等に楽しみや癒しを与えてくれること、みんな自然であることを実感していただくことを目的として開催致しました。小さなお子様から大人まで幅広い年齢層で、レシピエントや家族の皆様、一般の参加者の方など、様々な方

がみんなで釣りや BBQ を楽しみました。一般の方々には移植医療の事を知って頂くことができ、更に移植後の QOL の向上や関心を広める事、移植後こんなことして大丈夫かな…大丈夫みたい…などの心[気持ち]や体のバランスを知る良い機会となりました。皆様から募金や喜びの声が頂けたことを成果とする。

#### 4.LBJ セミナー：窪田基予子

平成26年度は2回のセミナーを開催しました。

初回は、平成26年総会時に、設立1周年を記念してトリオジャパン会長 野村祐之氏を迎えて、アメリカベイラー大学での肝臓移植の体験についてお話を伺いました。日本と大きく異なる患者中心の医療の実態や、移植を取り巻く自身や家族の心の状態や変化、一人の死によって肝臓移植が行われ、同時に自分の肝臓が摘出された瞬間を振り返り、「生きている、生かされている、一緒だね(ドナーと一緒に)」とこだまのように何度も聞こえてきた体験などをお話頂きました。肝臓と同じ重さの水袋を持参され、会場内で回覧。その重さに皆さんビックリ(健康な成人男性の肝臓の重さは約1.2Kg前後)。体の中で一番大きな臓器です。この重さの臓器が摘出され、移植される。移植医療に対して実感が湧かないとおっしゃっていた一般の方々には、重さだけでもリアルで衝撃的だったようです。移植を受けたことで物事を考えるのも、「私が〜」からドナーと共に今の自分がある「私たちが〜」という気持ちの変化について、アイ(I)デンティティーがウィー(We)デンティティーに変わった人生観のお話が深く印象に残りました。良いお話だったまた聴きたいとの要望も多々頂きました。



2回目は、10月24日ちよだプラットフォームスクエアにて、松野直徒先生による「移植医療後進国、日本〜ドナーの貴重な意思を無駄にしないために〜」というテーマでのセミナーを開催しました。一般の方々にもわかりやすく、脳死と植物状態の違いや、家族だから提供するのが当たり前のように生体臓器移植が中心に行われている日本ですが、健康な人を手術することは、実は病気の人を増やすことにもつながり、望ましい移植医療の姿ではないこと、世界の中で日本の臓器移植の少なさ、アジアの中でも中国、韓国、台湾などより臓器提供が少ない日本の実情について説明頂きました。

#### 5.臓器保存機能再生研究開発 移植関連学会報告:小原 弘道(監事、首都大学東京 理工学研究科)

平成26年9月7日から10日にかけて日本機械学会年次大会(東京電機大, 足立区)、日本移植学会総会(京王プラザホテル, 新宿)9月10日から12日があり、関係者も多く発表を行いました。特に、招待講演として、機械学会年次大会では、WS(ワークショップ)の招待講演として松野先生(旭川医大)による「移植医療における虚血再灌流障害と持続型臓器保存」、小原の「病気の子供を助きたい:肝臓疾患のための医療技術」、移植学会総会では50周年を記念するメモリアル講演(日本の移植・再生医療〜次の半世紀へ向けて〜)において、絵野沢先生(国立成育医療研究センター)の「臓器保存の今後臨床として、科学として開発」の発表があり、技術、科学と移植医療をつなぐための研究の歴史、成果、そして未来について報告されました。また、10月の人工臓器学会では、腎臓、肝臓のための臓器灌流装置に関する発表をさせていただくと共に、移植医療の現状を広くみなさんにお伝えしてまいりました。

11月28日-29日と移植医療でも様々な角度から幅広い成果を出されている大阪大学のお膝元、千里ライフサイエンスセンターにおいて澤 芳樹会長(大阪大学心臓血管外科)のもと、第41回日本臓器保存生物医学会学術集会が開催されました。臓器移植、細胞移植、臓器保存、免疫抑制剤管理また移植コーディネータの方の勉強会など本会にゆかりの深いみなさまが多数参加されており、アットホームな雰囲気の中、活発な情報交換、議論が繰り広げられる学会となりました。我々も多数の発表の機会をいただき、また小原は座長を務めさせていただくなど、大変貴重な勉強をすることができました。臓器保存生物医学会会場においてLBJのポスターも会場ではとときわ目立つ位置に掲示していただいていたこととお伝えし、実行委員のみなさまへの感謝の意を表したいと思います。昨年度は多くの発表の機会をお預かりし、ひとりでも多くの方に移植医療のこと、そして移植医療をつなぐための研究があることを伝えることができました。

## 6.いのちの架け橋チャリティフォーラム2015: 窪田基予子

平成27年1月31日、早稲田奉仕園スコットホールにて、日本には移植医療でしか命を救うことができない人が沢山いること、死後の臓器提供(いのちの贈り物)によって誰もが手をさしのべれば救えるいのちがあることを多くの市民に知って頂き、大切な人と、大切な人のために、いのちについて考える機会をもっていただくことを目的とした集会を試みました。トキワ松学園の佐藤毅先生を招いて、学校教育に於ける保健体育の「いのちの授業」の紹介と臓器移植を含む授業内容の展開の工夫や生徒たちの心の変化などについてお話を伺いました。また、「生かされ活かす輝きのち」というテーマで、移植体験者による座談会で、心臓移植、肝臓移植、膵腎同時移植者らのそれぞれの体験を通して、臓器移植への理解を呼びかけました。また、ご来場の多くの方々が呼びかけに応じて下さり、募金にご協力下さいました。DUTE & 鬼無宣寿によるゴスペルコンサートは、魂に語りかける迫力があり、参加者全員で歌うワークショップもとても楽しかったと好評でした。礼拝堂という場所で、いのちについて語り合い、ゴスペルに触れ、心が癒され優しい気持ちでいのちと向き合う機会をもって頂けたことと思います。200人の定員を超える参加者に恵まれことは大きな成果でした。



## 7.第2回思いをつなぐアート展: 瀬戸島宏枝(事務局 アート展担当)

東京都、杉並区社会福祉協議会、NPO法人日本移植者協議会の後援を頂き、3月13日～18日、東京都武蔵野市吉祥寺にあるギャラリー永谷にて第2回思いをつなぐアート展を開催致しました。このアート展は、移植医療について一般の方々にも関心を持って頂くきっかけ作りの場の一つとして、今後も年に一度開催していく予定です。前回に引き続き、今回も会員の皆様の想いを込めた作品や、国内外で移植を受けた子供達の明るい作品を沢山出展して頂きました(72名81点)。今回は新たにワークショップの開催を試み、参加された皆様に楽しんで頂けて会場を盛り上げました。また、会員の岡本明子さんの詩集とアーティストによるコラボレーション企画(こちらとても好評でした)や、会員らが共同制作した切手絵の作品も多くの方から「素晴らしい」のお言葉を頂きました。他にも、来場者参加型アート展を意識した、万華鏡の展示や桜の花びらを貼って桜の木に満開の花を咲かせる試みもありました。京都で臓器移植の普及に取り組むHART WARKSのメンバーのティアリ(日本在住フランス人イラストレーター)さんも作品出展にご協力下さり、東京と京都の移植の橋が繋がりました。また、会場では、ご来場の方々から募金を集い、温かいご支援を頂きました。募金にご協力頂いた方々へ、会員が手作りした粗品をお礼として差し上げ大変喜ばれました。今回のアート展は内容もより充実し、前回の来場者を上回る160名の方々にご来場頂くことができ、開催場所も好評でした。



## 8.その他

### 「お花見の会」：窪田基予子

LBJ の移植医療への理解を社会に広げていくための活動に賛同、ご協力いただいている関連団体の中でも、東京女子医大移植者の会 あけぼの会の皆様と年々親交が深まっております。毎年4月第1土曜日は新宿御苑でお花見会を開いており、お誘いを受け参加しています。昨年は一人での参加でしたが、今年は松野先生も参加下さいました。あけぼの会は、腎移植、隣腎同時移植をされた約2千人の患者会です。免疫抑制剤や慢性拒絶などの勉強会も盛んですし、情報も豊富です。



### 「傾聴ボランティア活動」

傾聴ボランティア育成講座を修了して、LBJ傾聴サークルクローバーに登録しているボランティアは16名です。活動場所は、グランダ上井草(有料高齢者介護施設)とブース記念病院に毎週訪問活動を行いました。グランダでは、毎回最低2名は参加する体制を整え、ローテーションを組んで活動しました。活動が続ける中で、利用者さんも増え、認知症の方も「前にお会いしましたよね」と顔を覚えて下さり励みになります。ホスピスでは、当然ながら人の入れ替わりが激しく、共に過ごせる「瞬間」に感謝し、出来る限り気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けて活動しています。振り返りを大切に勉強を重ねています。